

第3回 博多と福岡を結ぶ国体道路の空間利活用検討会

<p>■日時 令和3年6月1日～11日 持ち回り開催</p>	<p>■委員</p> <table><tr><td>・坂口委員長</td><td>・辰巳委員</td></tr><tr><td>・原口委員</td><td>・縄田委員</td></tr><tr><td>・中芝委員</td><td>・倉富委員</td></tr><tr><td>・安川委員（代）</td><td>・榑崎委員（代）</td></tr><tr><td>・松下委員</td><td>・南原委員</td></tr><tr><td>・竹ヶ原委員</td><td>・平間委員</td></tr><tr><td>・内林委員</td><td>・野田委員</td></tr></table>	・坂口委員長	・辰巳委員	・原口委員	・縄田委員	・中芝委員	・倉富委員	・安川委員（代）	・榑崎委員（代）	・松下委員	・南原委員	・竹ヶ原委員	・平間委員	・内林委員	・野田委員
・坂口委員長	・辰巳委員														
・原口委員	・縄田委員														
・中芝委員	・倉富委員														
・安川委員（代）	・榑崎委員（代）														
・松下委員	・南原委員														
・竹ヶ原委員	・平間委員														
・内林委員	・野田委員														

発言要旨

国体道路の空間再配分検討について

① 国体道路の短期対策の方向性に関して

【委員発言】

- ・現在の道路幅員の中で自転車通行帯を整備することは不可能であるため、矢羽根を設置する案でよい。ただし、矢羽根1mは狭く感じるので少しでも広げる検討をして欲しい。
- ・矢羽根はL型側溝等採用で、同じ1mでも自転車は走りやすく感じるので検討して欲しい。
- ・植栽帯は撤去希望。矢羽根は少し狭いので自転車や車を運転する側からしても非常に危ないと感じている。将来的には植栽撤去+自転車通行帯が理想である。
- ・植栽帯はゴミが捨てられていることが多い。自転車の安全性は懸念される場所ではあるが、歩道が狭い箇所もあるため植栽帯撤去に賛成である。
- ・長期対策の検討は、今後どのような方向性でどのような整備を考えているのか。
- ・将来的に、小型モビリティが普及していくなかで対応を考えていく必要がある。

② 国体道路（春吉橋）の景観検討に関して

【委員発言】

- ・高欄は、横桟タイプは足を掛けやすいため、高欄を乗り越える方が出てくるかもしれない。足掛け防止を踏まえ、提案の多柵型で異論はない。
- ・トップレールが手に馴染みやすい形状ということだが、トップレールを手で握ることを考慮する必要はあるか。
- ・景観照明は高欄の内側にのみ設置するようであるが、できれば内側と外側の両方を照らすことは出来ないか。
- ・照明は、照度、照明配線の補修方法、強度等を検討した上で決めてほしい。
- ・舗装色は歩道部分と賑わい空間の橋梁部分で色を分かれなないように、検討を進めてほしい。色を変えるとせつかくの広場が狭く感じる。なるべく広く感じられるように歩道と広場の色を同じ系統の色で統一した方がよいのではないか。
- ・ブロック舗装は変色や割れることがないよう検討して欲しい。
- ・ブロック舗装は、滑りにくいタイプとして欲しい。
- ・よく検討されていると考える。歩道舗装はグレー系でよい。
- ・店舗の入れ替わりを想定した上でのグレー系の色調への統一は、良いと思う。このまま進めていただきたい。
- ・落ち着いた色でグレー系に統一することは重要。
- ・那珂川沿岸の護岸部分（国体道路から川上側）の舗装の色彩等との連続性も検討して欲しい。
- ・品格や落ち着きがコンセプトで、グレー系を基調としたデザインの考え方に異論はない。

春吉橋賑わい空間のあり方について

【委員発言】

- ・はかた駅前通りから天神までの空間の使い方が重要である。
- ・チャンネルシティの利用者や休日の観光客、移動する人を踏まえ、中間ポイントとして賑わい空間をどう使っていくか検討すべきである。
- ・地域との共存・共栄を図っていくことが重要である。
- ・運営面での仕組みづくりには、エリアマネジメントをどのように実施するかの観点が必要。
- ・エリアマネジメントが必要だという意見には賛成。エリアマネジメント団体の立ち上げなどは真剣に考えないといけない。
- ・春吉橋近辺において、まちづくりに対してスポンサードをしてくれる民間企業がないのか。民間企業が出資し、賑わい空間のイベント開催や春吉橋の使い方を一緒に考えるなどの動きになれば、より注目されると思う。
- ・場所の提供に加え、インフラを整備し、環境を整えてあげることは必要。民間企業が参画し、維持管理に還元するような仕組みづくりができれば良い。
- ・春吉橋に賑わい空間を創出することによって、近隣の屋台や中洲の飲食店と客の取り合いが発生する懸念がある。
- ・コロナ禍で飲食店が疲弊している中で、イベントを通じて地域に活力を戻したいと思う点は同じである。
- ・イベント用にインフラ設備を整備する際に、誰がその使用料を負担するのかが問題となる。出店者にも一部負担させるべきではないか。全体の出店数を考えて、必要設備を検討すべき。
- ・中洲地区は屋台などによって、夜は賑わいがある。昼間に春吉橋で軽食やイベントなどを開催することで、昼間にも賑わいが生まれ、近隣地域へ相乗効果が期待できる。
- ・イベントを実施するに当たってゴミの収集は徹底して欲しい。
- ・イベントが開催されない期間に地域が利用することは可能なのか。
- ・周辺の飲食と共存・共栄を考えた時に、春吉橋が集客拠点として機能し、ここから客が周辺へ繰り出していくようなことができればよいと思う。単に店ではなく、来ることが目的になるような機能が必要。
- ・広告に関しては、景観を阻害するようなものにならないよう配慮すべき。
- ・民間サウンディングで得た提案内容を実現するために法的な問題はないか。制約条件に従った上で提案内容をもっているのか。
- ・河川法や道路法などの制約条件には気をつけて頂きたい。

以 上